

令和 8 年度 牧之原市総合教育会議

日時 令和 8 年 8 月 20 日（木）
午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会場 市役所相良庁舎 4 階大会議室

●出席者

杉本基久雄市長

橋本勝教育長（牧之原市教育長、牧之原市菊川市学校組合教育長）

【牧之原市教育委員会委員】

吉住幸子委員、池ヶ谷祐太委員、渡辺彩子委員、本目弘昇委員

【牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員】

近江賢市委員、八木香代子委員、永田康彦委員、山本和波委員

【事務局（総務部総務課）】

源間総務部長、瀧口総務課長、田中

【教育委員会事務局】

竹内教育文化部長、水野教育総務課長、小倉学校教育課長、佐藤学校教育課
主席指導主事、芝原学校教育課指導主事、坂本学校教育課指導主事、大石学
校教育課教育相談員、小塚義務教育学校整備室長、浅井社会教育課長、松井
スポーツ推進課長、飯田教育総務課主幹

1 開 会

○瀧口総務課長

それでは、皆さんこんにちは。定刻より少し早いですけれども、始めさせて
いただきたいと思います。

本日はお忙しい中、御出席を頂きまして、ありがとうございます。本日の
進行を務めさせていただきます、総務課長の瀧口と申します。よろしくお願いいたします。

ただいまから、令和 8 年度牧之原市総合教育会議を開催いたします。初め
に、杉本市長より御挨拶を申し上げます。お願いいたします。

2 市長挨拶

○杉本市長

本日は、令和 8 年度の牧之原市総合教育会議ということで、大変お忙しい

中、お集まりいただき、ありがとうございます。また、日頃から牧之原市の教育行政につきましては、格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年は、中学生が頑張っております。

野球について、牧之原中学校と相良中学校、榛原中学校、吉田中学校の4校の連合チームになっておりまして、少子化の影響と中学からクラブチームに行く子たちがいるため、学校単位でチーム編成することが難しく、連合チームを編成するようになってから4年ほど経過している状況となっております。

去年は、県大会の2回戦まで行きまして、今年は、県大会を優勝しました。そして、東海大会で3位以上になると全国大会に行けるところ、準優勝しました。決勝では、静岡県大会では勝った相手に敗退しましたが、全国大会に行きまして、全国から25チームが出場し、1回戦は京都府の代表に3対2で勝ったので次の応援のため、開催地の島根県に向かい、昨日2回戦の応援に行ってきました。

本当にしびれました。3対1で勝っていて、最終回にあと一人までとなりましたが、ツーアウト三塁で、レフトヒットを打たれて、3対3になりました。そして、延長戦となり、延長戦になるとタイブレークといって、ノーアウト一・二塁からはじまります。そして、相手が8回表に2点入れましたが、その裏に2点返して同点に追いつきました。そして、9回10回をピッチャーが0点に抑えて、10回裏に1点勝ち越して、6対5でサヨナラ勝ちしました。

先ほど、朗報が入りまして、3回戦も2対1で勝ちました。すごいことで、全国ベスト4です。全国7,900校くらいある野球部での7,900分の4です。そして、今日戦った相手は桐生第一で、甲子園常連校の付属中学です。もう、体が大きくて高校生みたいです。ピッチャーを見ましたが、マックス139キロです。その相手に2点をとって勝ち、感動しました。ここまで来たらもう決勝まで行ってもらいたいです。

また、新聞に掲載されたかと思いますが、榛原中学校の永脇さんが、全中の水泳で、エースワン所属ですが、200メートルメドレーと400メートルメドレーで両方とも6位入賞ってことで頑張っています。

それから、相撲で榛原中学校の松本くん、今日、全国大会出場の報告にきてくれましたが、明後日22日、23日と中体連の全国大会があります。鳥取県開催で、「優勝目指します」と、とても力強い。彼も県大会優勝して、東海大会で準優勝し、全国大会に行きます。体が大きくて、レスリングでは日本一になっています。レスリングと相撲を両方やっています。レスリングで、

今年の夏にあった大会で、日本一になっています。「将来、僕は関取になります」と今日宣言しました。すごい子たちがいます。皆さん頑張っており、本当に素晴らしいことだなと思いますので、報告させていただきました。

本日の会議でございますが、協議事項にありますとおり、起郷家教育について、その内容等を説明させていただき、御意見を伺いたいと考えております。

また、本日の会議におきましては、協議事項について、この場で何かを決定するというものではございませんので、限られた時間の中ではありますが、皆さんの率直な御意見を、お聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○瀧口総務課長

ありがとうございました。

それでは、協議事項に移らせていただきます。

3 協議事項

総合計画後期基本計画における重点戦略「まちの未来に向けた新たな教育・人づくり」、重点プロジェクト「9年間を通した教育環境の充実」、起郷家教育について

○瀧口総務課長

本日は、「第3次牧之原市総合計画」について、現在、策定を進めております、令和9年度から12年度までを計画期間とする「後期基本計画」における教育施策について、御協議させていただきます。

当市では、“RIDE ON MAKINOHARA 夢に乗るまち 牧之原”を将来都市像に掲げ、若者の定着や住む魅力の向上に向けた施策を推進している中で、本市独自のキャリア教育である「起郷家教育」は、後期基本計画においても重要な役割を担うこととなります。

今回は、この「起郷家教育」を軸とした9年間を通した教育環境の充実について、教育委員会事務局より御説明させていただき、市長ならびに教育委員の皆様で、今後の方向性について御意見を交わしていただきたいと思います。

会議につきましては、市長が座長となることとなっておりますので、協議事項につきましては市長に進行をお願いいたします。市長お願いいたします。

○杉本市長

冒頭に説明がありました、総合計画の基本計画では、「起郷家教育」を重点プロジェクトの中に位置づけて進めてまいります。

この「起郷家教育」の本格展開や、地域の方々の受け止め等について、委員の皆様の御意見や、子供たちを見守る中での実感など、御意見をお聴かせください。

それでは、説明をお願いします。

●学校教育課 坂本指導主事

【総合計画後期基本計画における重点戦略「まちの未来に向けた新たな教育・人づくり」、重点プロジェクト「9年間を通した教育環境の充実」、起郷家教育についての資料を用いて説明】

○杉本市長

それでは、ただ今説明をいたしました内容につきまして、皆様から、御質問、御意見等をお伺いしたいと思います。挙手をしていただき、マイク手前にあるスイッチを押してから発言をお願いしたいと思います。

○近江委員

9年間を通して子供を育てるという考え方は、これから義務教育学校の開設に向けて大事な取組であり、それを着実に進められていることはとても素晴らしいことだと思います。

先日、小学5年生のアースランチの実践、昨年度の実践をホームページで閲覧させていただきました。アースランチはスタートの頃から実際に会場で見せていただきましたが、年々進化しているなということを感じました。自分たちで育てたお米や野菜を使って、メニューを考えランチを作るとか、地元の人たちとつながりながら、地元の人たちが作ったものをメニューに取り入れるとか、昨年は道の駅にメニューとして提供するとか、どんどん進化していると思いました。

小学6年生や中学1年生の命の防災や、中学2年生や中学3年生の仕事と価値創造も、同じような形で進んでいるのだろうと思うわけです。そこで、小学生はその取組を4年後に開設される榛原の義務教育学校では、一つの学校で行うわけです。それぞれの地区でそれぞれの農家の人たちに教えて

いただきながら、メニューを作るという形で進んできた学習を一つの義務教育学校になって、どのようにまとめて義務教育学校としてつなげていくのが難しいと思いますが、どのように進めようとされているのか、お伺いできればと思います。

○坂本指導主事

御質問ありがとうございます。担当としての現段階の展望となりますが、起郷家教育のプログラムで考えたときに、今、市の方から提案したプログラムが学校のものになっていくためには、先生たちも一緒に考えていくということは大事かと思います。義務教育学校になるときに、一つのチャンスだと思っており、先生たちで一緒になって、そこに地域の人とかも混ざって一緒に考えられたら、プログラムがみんなのものになっていくかと思います。対話を通して、義務教育学校になったときにも、一つのものとしてやっていけるような機会を作れたらいいなと思っています。

いろいろな地域の財が、地域が広がることで増えていくことは非常にいいことだと思いますので、情報を共有していきながら、いろいろなことを考えていけたらいいのではないかと考えています。

○橋本教育長

学区が広がるというか、今、小学校単位でやっているものが、今度、中学校単位になるわけです。それに対して、不安というかどうなんだろうという声が聞こえてきますが、それはプラスに捉えていくということが大事ではないかなと思っています。今の活動が、小学校単位から中学校単位になり、広がることで薄まってしまうのではなく、それが相互に結びついて、さらにより良いものを目指していくというような姿を想像すれば、さらに前進していくのではないかなと思います。

○近江委員

今、各小学校単位でできているつながりを生かす手立てはないのでしょうか。

○橋本教育長

教員レベルでは、学校同士の小中学校間ですとか、小学校間で連携の取組もしており、将来の義務教育学校を想定して、様々な取組を一つの義務教育学校になったときにうまくいけるような形でやっています。

○近江委員

メニューを揃えて、5年生はアースランチからの流れを大事にしながら、地域の再発見という形でやっている。全部の小学校が共通の土台の上でやれるように取り組んでおり、それは5年生だけじゃなくて、6年生も中学生も同じ。どの学校も同じような流れで進めていますので、どのように工夫すれば、いままでの地域と子供たちの関係がうまくいくのか、生きるのかお伺いしたい。

○橋本教育長

義務教育学校では地域が広がるわけですが、それぞれ取り組んできた小学校ごとの財産があるわけです。ですので、新しい学校になって同じプログラムをやったとしても、選択肢というか取組方法は、これまでの経験を生かしながら、さらに広がっていくという考え方になれば、心配はないのかと思っています。

○渡辺委員

私は、小中学生に英語を教える教室をやっておりますが、子供たちに好きな教科は何って聞くと、半分以上の子が「起郷家」と答えます。

私のクラスの中には多いときで4つの小学校の子が混ざるんですけども、「起郷家」というと「学校の境なく」と説明にもあったように、4校の子が揃っても牧之原市の子なので、「起郷家」というと、「僕も私も」みたいな感じで、みんなで話が通じます。もし学校ごとにやっていたら「起郷家って何？」となるかもしれないんですけども、それぞれの学校でやっているのをつながりがあって、例えば5、6年生の子たちが発表するのを低学年の子が聞いていたとしたら、新しい学校になったときも同じ起郷家で、まずみんなの意識が共通して、でも「僕の学校はこうしていたよ」「僕の学校はこうしたよ」みたいな感じで話ができれば、教員側がちょっとサポートする必要はあると思うんですが、子供たち同士でも「じゃあ、その学校がこうしていたならこうしよう」みたいなアイデアにつながるのかなとも思います。なので、一つの起郷家っていうことで、みんながやっているということが強みなのかと思っていました。

○池ヶ谷委員

子供たちの中で、起郷家教育が浸透していることはすごく良いことだし、今まで算数とか国語は、みんなイメージにあるけど「起郷家」ということで、イメージがついていることは良いことだと思いました。先ほどのスライ

ドでも8年前ぐらいからキャリア教育を中心に据えようと、出てきたという話を聞いて、8年間でいろんなプログラムを作ったりとか、キャリア教育を牧之原市で、教育の柱に据えようということをずっとやってきたと思うんですけど、ここにいらっしゃる方々がどういう風に思うのかということが気になる。

今後、こう牧之原市の教育の柱のような形で起郷家教育を進めていくっていうのは、良いのかなとか、自分は、良いなと思っているんですけども、いろんな意見をお聞きしたいなと思いました。

○橋本教育長

皆さんからこの後、発言していただきたいのですが、その前に一つだけ、平成31年に、先ほどのスライドにあったように「望ましい教育環境のあり方に関する方針」が出されました。その中で、次代を切り拓く力を育てるために、キャリア教育を軸とした小中一貫教育と、社会全体で子供を育てる仕組み、コミュニティスクールを実現するという方針の下に、目標年度を2030年度にする。つまり新しい学校ができることを目標にこれまでやってきました。

教育内容について、キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティスクール、併せて、教育環境、学校施設は安心安全で学びやすく、通いたい、通わせたいと思っていただける魅力的な小中一貫校、この教育内容と学校施設が一つになって、牧之原市の教育環境が整備されて、次の時代に、牧之原市の教育ってすごいよねっていうようなものをつくり上げていくということを考えて、約10年間、取り組んできた中に、この起郷家教育があったと思います。

そういうことで、池ヶ谷委員が「これはこのままで良いのか」という話は、池ヶ谷委員も良いつて思っているんですけど、他の委員の皆さんはどうかということを伺いたい。

○吉住委員

市の基本計画の中で「人づくり」ということを掲げているんですけど、その「人づくり」の起郷家教育は、私の中では、すでに10年ぐらい前から牧之原市はやってたような気がします。私が教育委員になって、静大の島田先生を招いて研修会をやっていたんです。私は、その内容に「え、今からこれ、これからやるのかな」と、私は教員でもないのにびっくりしました。子供の数が少なくなるからではなくて、牧之原市の子供たちに、将来に向けてどのような教育をするのかということが、確かスタートだったと思います。

その中で、予想以上の子供の減少が確定的となって、小中一貫校を市長が決めて、それで準備をしたと思います。近隣の市とかここ2、3年でなんとかしようとしている学校があると思うんですけど、うちはやっぱり早かった。本当に市の決断も早くて、学校再編と連動した教育改革としては、全国的にまれだったなと思います。

私は二つの話をさせてもらいたいんですけど、起郷家教育の中でも防災に注目をしました。細江小の竜巻災害ですけれども、どういうところが参考になったかという、当時の校長の迷った姿、綺麗ごとにしなくて、時間が経つと自分がやったことって正しかったって思いたいと思うんですけど、そうじゃなくて、細江小の当時の校長は、児童の引渡し方法を自分の考えでやろうと思ったら、現場の教員に反対をされてやり方を変えたと、そういう正直な言い方だとか、被災後、教員が集団下校にも付き添って、教育の姿を地域の方が目にできるように心がけたという、ちょっとした小さいことなんですけど。

それからもう一つ、これはNHKで放送された勝間田小学校の防災ですけど、先生が一人も映ってなかったんです。みんな子供だけで、すごく印象的でした。欲を言えば、これからは地域の人たちも一緒になって、おじいさんやおばあさんを小学生が手をつないで山の上に逃げるだとかの訓練をして欲しいです。私たちは訓練以上のことはできないって思います。確かその時にはもっとうまくやろうと思うんですけど、やったことのないことって、やっぱりできないなあって思います。

私は現場の人たちの言うことが、いつも一番正しいと思っています。あの現場の教員たちが地域と連携した、牧之原の起郷家教育がこの7年間、子供に生き抜く力をつけることを実感しているのも、是非、市長が応援団長になって、押し進めていただきたいと思います。

○本目委員

私は教職を退職しましたが、当時、このあり方ができあがったときに関わっておりました。全部の学校の推進委員の先生方がキャリア教育についての研修をずっとやっていて、それを自分の学校に戻って知らせてくれているので、教員が小学校から中学校までのキャリア教育のことがわかり、中学校の先生が小学校の状況がどういう状況かをわかりながら、進めている。新しい学校になって、もしこうしたことができていなければ、大きな混乱が生じてしまいそうだなと思うんですよね。プログラムは、その時の先生によって変わると思うんだけど、当時、全部の小中学校の教務主任さんたちが集まって、身につけたい資質を小学校1年生から9年生まで全部作って、文科省の

資料と照らし合わせながら作り始めたんです。その後静大の教職大学院に派遣された教員と、教育委員会の指導主事が続けてくれたことが嬉しいし、市の方も派遣を認めてくれたことが嬉しい。静大が入ってのプログラムだし、軸らしい軸ができたと感じています。もっと言うと、子供たちは、地域のことにも目を向けられるようになってきた。今までの学校は教科書が中心だったけど、地域の題材とか地域のことを考えることが、このキャリア教育で増えた。また、地域の人に接することが多くなったっていうのは嬉しいし、渡辺委員からお話があったように、子供たちが楽しんでいるっていうのが、また嬉しい。なので、新しい学校になっても、もっと牧之原市としてPRして欲しいなと思う。これだけのことをPTAの方だとか、保護者に、9年で動いていることをどこかで示して欲しい。

近江委員が言ったようにコミュニティスクールなんかも、それぞれのところが一つになって、地域の人はその後どうすると言うけれど、地域の方にも今こういう風にキャリア教育が進んでいて、ボランティアとしてゲストティーチャーとして来てもらうだけじゃなくて、一緒に子供を育てるための一員だっていう風に地域の人にもわかるよう、広げていくように、考えて欲しいなと思っていました。

文部科学省にプログラムを提出したときに、文科省の方から優良賞を数年前にもらっているし、その中で、今度は静大も入ってということですので、自信を持って僕らもPRしたいし、子供自身もこれをやることに誇りを持ってもらいたいなと思います。

○山本委員

起郷家教育をやっていく中で、先ほど渡辺委員からもありましたが、他の学校ともこの教育があるから、一緒の方向を目指していけるってことだなと思います。これから、部活動やスポ少とかもなくなって、地域展開していく中で、同じ市にいればこういう一本しっかりしたキャリア教育があれば、どこに行っても子供たちとしては同じ話ができるとかでとてもいいかなと思います。先ほど、本目委員も言いましたが、もう少し地域の方に知ってもらうということが、とても大事なかなと思っています。自分も保護者として教育委員をやっていますが、教育委員2年目で、それまではキャリア教育、起郷家教育をあまり知りませんでした。8月にい〜らで先生方を対象にしたことを、保護者向けにやってもいいんじゃないかなと思います。あの時は島田先生も話してもらって「ラーニング・コンパス」とこの起郷家を結びつけた説明というか、ラーニング・コンパスの説明を聞くとこの起郷家教育がとてもわかりやすかったです。なので保護者の方にですね、もう少し、牧之原市の

先生方がこういうキャリア教育をやっているということを伝えてもらえれば。

前期基本計画でも「地域とともにある学校」、後期でも「地域経営を担う人づくり」ということで、地域がどうしても出てくるので、講演でもなんでもいいんですけど、もう強制的に聞いてもらってもいいんじゃないかなと思っています。

ちょっと近いことかもしれないですけど、今年、小学校の校長が変わりまして、田中校長先生になって「協力平」という学校広報のようなものを「キューベル」というアプリで保護者の方に送っているんですけど、かなり細かく出してくれています。具体的な回数は忘れてしまいましたが、年間50回以上は出したいと言ってくれました。それも一つ地域の方にとってはこういうことを知る情報にはなると思いますので、今は本当に紙じゃなくてもそういう媒体、SNSを使えば、地域の方はこういうことを知る機会が増えますし、自分から知ろうと思えば、本当に知る機会が多いと思います。ですので、まずは先生方がどうやって子供たちにキャリア教育をやっているのか、保護者の方に先生方はこう教えていますと発信してもらえれば。保護者の方が家でもこう教えていますということが合えば、この次の報告事項にもあるんですが、先生方はかなり大変だと思うので、基本は家庭での子育てがあってプラスアルファ学校だと思います。その家の子育てのやり方についても、牧之原市でキャリア教育をやっているから、こういうことをやっているってなると、先生の負担も少なからず減るんじゃないかなと思うので、ぜひ保護者に対して、地域の方に対して起郷家教育を広めて欲しいなと思います。

○八木委員

山本委員の意見を聞いて、保護者の方に知らせるということですけど、起郷家教育で育む資質・能力について、低学年の多様性の理解で、身近で働く人の様子を見て興味を持つという項目があるんですけど、もうやられているかもしれないんですけど、例えば、家族、おじいちゃんでもおばあちゃんでもお父さんでもお母さんでもいいんですけど、夏休みの機会とかに、職場で許されるとしたら、一緒に一日職場見学をさせてもらうとか、一緒に働くとか、何のために働いているかインタビューなどをして、身近な人の職業について、家族の職業について深く知るっていうこともできることじゃないかなと。

学校としては、起郷家教育の一環の中で、体験をさせたいですっていう話をしていくことで、保護者にも知らせることができるし、生徒自身も、自分の家族の職業についてよく知ることができると思います。

高校の教員をやっている、高校生だと自分の職業を見据えた進路について話すことが増えるんですが、その時に高校生は、結構、自分の保護者、親の職業について知らない子が多いんですよ。「あなたのお父さんとかお母さんのお仕事見てどう思う？」って言っても「え、俺おやじの仕事知らない」っていう子がすごく多い。そういう子は、自分の進路についても、なかなかアイデアというか、明確なアイデアを持ちづらいことがあるので、小学生の小さいうちから、身近な人が働く姿を見せたり、職業について考えるという機会を与えるというのは、いいチャンスじゃないかなと思います、まさに起郷家教育が目指すところなんじゃないかなと思います。

○池ヶ谷委員

発信する方法で、動画が一番最近見るなど、子供も親も含めて見るなど思ったので、ぜひ動画で、SNSでも紹介できたりすれば、説明しやすいし、手軽に見られるなど思ったのと、キャリア教育を軸にすることはいいことだと、ずっと思っているんですけども、キャリア教育は自分の生き方とか働き方とか、どんなものが好きとか、そういうのを知る教育だと思うので、さきほど、本目委員がおっしゃったように、いろんな人が関われば関われる分だけ、生き方とか働き方とかいろんな価値観に触れることができると思います。人が多くなることはとてもいい、関わる人が多くなることはとてもいいことで、学校に様々な人が関われる仕組みが、キャリア教育であったり、起郷家教育だと思っているので、そういう部分でまち全体に浸透していくといい、もっと良くなるなどと思いました。

学校が再編されて規模が大きくなったりだとかで、いろいろ、学校が注目される時なので、キャリア教育が大切なんだよということを皆さんに知ってもらうということがすごく大切で、さきほどの発信につながるというのと、私自身、今後の課題だなど思っているんですけども、義務教育の9年間のことをキャリア教育でやっていくけど、キャリア教育は別に9年間で終わることでもなくて、それからの人生の方が長いから常に自分の生き方とか、働き方とかというのは考えていかなきゃいけないんですよ。なので、そういうところにも浸透していくといいんじゃないかなと思います。

○近江委員

池ヶ谷委員がおっしゃったことに関連しますが、スライドの7ページと25ページには起郷家教育で育てたい力と起郷家プログラムの目的が示されています。起郷家教育で育てたい力は創造力とコミュニケーション、課題解決力であって、プログラムの目的の方は4つあるんですけども、これはどっち

が正解なのかわかりませんが、7ページの起郷家教育で育てたい力だとすると、私はキャリア教育で育てたい力は、創造力とコミュニケーション、課題解決力というのは、物足りないように感じます。池ヶ谷委員が言われたようにキャリア教育で目的としているものは、生き方、どう生きたいかとかを考えることだと思います。中学生は3年生になったら進路決定するわけですから、本当に自分の将来のこと考えて進路決定できるような形にしてあげたいと思います。そういうところが見えないので、これが育てたい力でいいのかなと感じました。

教育大綱の基本理念は「こころざしを持ち 夢ある人づくり」であり、牧之原市の教育の一番大事なところなので、その中の言葉で言えば、「こころざしを持つ」とか、「自分の生き方をしっかり考える人間になれる」とか、そういうものが入ってこないのかなと感じましたので、皆さんの意見をお伺いしたいです。

○永田委員

教育委員は今年で3年目になりますが、教育委員を始めた頃に、小中一貫校とか義務教育学校のことについて、説明をいろいろ聞かされていたのですが、起郷家教育ということは言葉としては聞いていたのですが、実際、本当に中身を知ったのは今回の資料を頂いて、初めてだったんです。起郷家教育という名前からして、ちょっと地元優先になってしまわないかなといった印象がありました。

地元の企業、特に、お茶などの地場産業、そういうものにつながりが強くなりすぎてしまうと、視野を狭めてしまうのではないかと、説明を聞くとそんなことはないなと理解しましたが、最初はそういう思いがありました。

起郷家教育を通して、郷土愛を育む一方、郷土の問題や課題も知って解決したいと努力する。それが大事ではないかなと思いました。その経験を持ってさらに視野を世界に広めていけるような教育であつたら、素晴らしいなと思いました。

あと、起郷家教育は、大人たちが仕組みを考えて、子供たちに授けるものですが、逆に子供たちから教えられる機会があるのではないかなと、今回の資料を見て思いました。大人達の多くは、課題解決の立案を出すと、「そんなの無理だ」とか、「前例がない」ということで、できない理由を並べて反対に回る姿をよく見ます。それが、何のしがらみもなく夢と希望を持った子供たちが課題解決をしてしまう。そんな子供たちの姿勢、それこそが大人が学ぶべき姿ではないかなと思いました。それから、大人が気づかない地元の魅力を子供たちが発見したり、思いもつかないアイデアで、課題を解決に結びつ

けるというような子供たちが出てくるんじゃないかなと。だから大人たちは、この持続可能な起郷家教育の仕組みを発展させ、子供たちとともに学んでいくことが、価値のある起郷家教育ではないかなと感じました。

○池ヶ谷委員

大人の方が、学びがあるっていうのは、自分も高校生と関わったりとか、小学生と関わったりとかしているとよく感じて、大人がたくさん子供と関わった方がいいなと、子供はもちろん大人から学ぶことがたくさんあると思うんですけども、それ以上に大人の方がいろんなことを言語化できる分、子供から学ぶことってとても多い、逆に大人がうまくいくと思っても、子供と関わることでうまくいかないことってたくさんあるから、そういうところが学びとしては良いなと思っています。

キャリア教育とか、ずっと学んでいくためにも子供と関わった方がいいなと、だから地域の人にたくさん関わった方がいいなと話を聞いて思いました。

○坂本指導主事

さきほど、近江委員がおっしゃった資質能力の、7ページについてですが、資料がわかりにくくて申し訳なかったんですけども、このページについては、例えばということでこの3つを挙げさせていただきました。牧之原市で育てたい資質能力としては、12ページの表に挙げているものになります。もう少し多くの資質能力を細かく整理をしている形になります。

例えばその中には「学んだことと社会生活を結びつけ、自分の生活に活かす」というような、将来を見通したような資質能力なども含まれております。

○渡辺委員

さきほど、どう広めていくかっていうところで、皆さんがおっしゃるように「起郷家」と聞いただけだと、保護者や地域の方もわかりませんし、どう広めていくかなあと考えたときに、半強制的というのも保護者の方には大事ななと思ったんですけど、じゃあメールを送ったところで、日々皆さんたくさんのメール受けているので、なかなか見てもらえないとなったとき、授業参観を「起郷家の日」にして、子供たちの中では起郷家といったらいろんな学校の子が通じるように、例えば授業参観、1年から6年まで全部「起郷家」にして、他の学校も授業参観で年何回かある中で、絶対1日、1年から6年まで全部「起郷家」というのをやったら、保護者の中には完全に「起郷

家って何？」というのが強制的に入ると思うんですけど、そこで授業参観を見ることで、ちょっと何なんだろうと感じてもらって、そこから興味がある方はもっと深掘りするだろうし、そうじゃない方も、耳にしたりとかで広がるんじゃないかな。

低学年の保護者にもそういう意味では、広がるんじゃないかなと思いました。

市長が「牧之原市は日本一女性にやさしいまち」ということをおっしゃるんですけど、その2つ目ぐらいに起郷家教育を今度はバンバン出して言っていただいたら、市民の方にも広がっていくんじゃないかなって思います。

授業参観の中で、保護者はもちろん行くんですけど、最近の授業参観、両親ともに行く家庭がすごく多く感じます。お父さんも行かれるんですけど、それが例えば祖父母参観デーとか地域参観デーみたいなのもやって、その中で起郷家を出せば地域の方も行きやすいし、知ることでもあるかなと思いました。

○橋本教育長

いろいろなアイデアを出していただき、そういうこともやっていけば、起郷家教育が、保護者だけじゃなく、広く地域の方、市民に広がって、理解もされていくんじゃないかなということを思いました。取り組めるところからやっていけばいいかなと思っています。

参観会のスタイルも昔とちょっと違ってきているっていうこともありますし、地域開放で誰でも来てもいいですよという参観会も、以前、私が現場にいた頃はやっていました。いろいろ反対もあり、安全性の問題でどうなのかとか、そういうこともクリアしながら、取組を知っていただくにはいいことだと思います。

あわせて、SNSや動画配信、YouTubeもできたら、やってみたいかなと思っています。

「起郷家って何？」というところから興味を持っていただいて、中身を知っていただくと、「牧之原市の教育って、結構いいことやってるじゃん」とか、「全国的にもまれだね」とか、そういうことも知ってもらいたい。牧之原市の人たちに知ってもらいたいなって思います。しかしながら、スタートからずっとやってきた人間としては、近江委員、吉住委員、本目委員なんかもそうなんですけど、ずっと関わってきた人はいっていうことを自負しながらやってきたんだけど、なかなか理解しづらいということが課題かなと思っています。

市役所の中でも教育委員会から離れている方たちは「起郷家って何？」と

思っているかもしれませんが、先ほどの説明とか話し合いの中では、「牧之原の教育ってこういうことをやってるんだ」ということを、一部ではあるが理解されてきたのではないかと思います。これをいかに今度は発信していくかっていうところも、ヒントを頂きありがたく思っています。

○吉住委員

起郷家教育は、わかりやすく言うと「自分は何で食べていく」ということかなと思っています。しばらく前に小学生にも「自分の好きなことで食べていこう」ということが流行って、あの頃、仕事 150 選とか、私たちが子供の頃には考えられないような職業が山のように紹介されていました。基本は自分の本当に好きなことで、大金持ちになりたい人は別なんですけど、そうじゃない人は、起郷家教育の例として、どうやって自分の好きなことで、食べていけるかということを小さい頃から考えてくれたら、いいのではないかと思います。

○近江委員

スライドの 7 ページの起郷家教育で育てたい力で「創造力」や「コミュニケーション」、「課題解決力」を挙げられたのは、それが中核というような意識があるんじゃないかなと思うんですけども、私の希望としては起郷家教育が大綱にある、志を子供たちが持てることにつながっているんだということを PR していただけると嬉しいです。

それから、この起郷家教育で育む資質・能力の表があるんですけども、自分の希望としては、「活用力」の「情報の理解・選択・処理」の項目について、自分たちでいろいろ調べていく場面っていっぱいあると思うんです。その時に、今この世の中には嘘の情報も溢れていますので、自分たちで調べたことが、本当に正しいのかどうか判断する力を入れていただきたいです。これから生きていく子供たちには必要なことだと思うんです。騙されないとか、偽の情報もいっぱいあるので、小学校高学年から中学校ぐらいに、調べた情報が正しいかどうか判断するということを入れていただきたいです。

○橋本教育長

近江委員から起郷家教育で育む資質能力に入れて、という話があったんですが、そちらについては起郷家教育の中でもやっていますし、普段の授業で情報活用という形で、調べ学習はどの教科でも、教科以外でもやっています。やらなければならないことですので、重視していきたいと思います。

また、教育大綱の話も出ましたが、当然、教育大綱や教育振興基本計画、

市の総合計画、これらの計画とも、もちろん関連していますので、わかりやすい形でどうつながっているかというところを見せることは大事なかなと思っています。起郷家教育が単独であるわけではなくて、それぞれ関連しているということをわかるような形で示していきたいと思います。

○池ヶ谷委員

能力の話で、キャリア教育は大人も必要ですし、大人も身につけなきゃいけない能力なので、例えば大人が育む資質能力を決めたけど、それを時代とともに変えていけなくなってしまうたら、大人が学んでいないとなってしまう。資質能力は決めるんですけど、時代にあわせてとか、その時々によって変えられないものと変えられるものがあって、その時々によって違うと思うんですけど、それができる大人になっていくっていうことも必要な能力だと思っています。

なので、時代とともに判断する力とかも必要になったり、もっと違う力が必要になってくる可能性もあるから、どこかで考えながら、自信を持って進めていくことが必要なんじゃないかなと思いました。

○本目委員

地域で一生懸命働く人に出会うということ自体が、子供のキャリアを積んでいる感じがするんです。今の子供が大人になったとき、牧之原で生きようと思ったり、牧之原が好きだとか、どこかに行っても好きだとか、そういう子供に育ってもらいたいのので、一生懸命働いている地域の人にたくさん子供たちが出会う、そういうプログラムを継続して欲しいなと、思います。

○橋本教育長

先ほどのスライドの中にも、子供たちの意識の変化が、キャリア教育をやったから成果だというのは飛躍しすぎかもしれませんが、本目委員が言ったように、地域愛をどう育てていくかという中で、子供たちは、地域や社会、地域の人と関わることによって、牧之原に愛着が湧いて、ここで住み続けようと思うかもしれないし、出ていったとしても牧之原のことを想う、そういう大人になっていく。これを続けていくことがそういうことにつながっていくんじゃないかなと私は思っているの、今、本目委員が言ったような形で、地域との関わりで、新しい学校ができて地域はあるわけですので、そこに関わる。そういう中で子供たちに郷土愛が醸成されるような起郷家教育を大事にしていきたいなと私は思っていますが、委員の皆さんどうでしょうか。

○八木委員

先ほど渡辺委員がおっしゃったように、子供に「好きな教科は」と聞いて「起郷家」と言う子が半分くらいいるということで、子供が好きな教科になっているという点は成功ですし、起郷家という科目が好きで、地域で一生懸命働いている大人たちを見たり地域の人と関わったりして、地域を好きになってくれる生徒が、現に今、増えていると思うので、起郷家という科目を取り組んできたことは正解であったと私は思います。

○渡辺委員

保護者の意見として、自分が小さい頃は地域との関わりも、今より、子供会があったりとか、多かったんですけど、今はどんどん減ってきていて、地域との関わりとは言いますけども、子供が自分で行くことは難しいですし。親も知らないとか、地域がらみがなくなっている中で、関わらせるのがすごく難しい。挨拶にしても、ここの地域の子はすごく挨拶してくれるんですけど、挨拶していいのかな、このご時世、そういうこともあったりするもので、学校に投げて申し訳ないんですけど、学校が地域との関わりをつくっていただけるというのは、保護者としては自分たちができない部分をやっていただけなので、いいなと思いますし、大切だなと思います。

○橋本教育長

地域の形が昔に比べて変わってきています。自治会とか、近所付き合いとか、そういう中で地域のつながりというのは、地域に任しておけば自然にできるかっていったらなかなか難しい。学校が地域の人を招き入れ、いろんな活動子供たちと一緒にやってもらうことを増やしていけば、学校が仲介して地域もいろんなつながりができてくるようになっていくといいかなと思います。

学校も地域を大事にするということは、どこの学校も考えていることでもありますので、コミュニティスクールのディレクターさんを中心に、地域の人たちが学校と関わっていることによって学校の運営にも関心を持ってもらって、「こういう学校をみんなでつくっていきましょう」という形が理想かなと思います。理想を掲げるだけじゃなくて、そのようになっていくためにいろいろ考えていけば、今の学校においても新しい学校においても、それが実現できると思いますので、今後の取組として考えていきたい。

○近江委員

起郷家教育を各学校が進めていく中で、専門家を呼んでみたいとか、詳しく専門的なお話をしてもらえる方とつながりたいという場面があります。今、牧中学2年生はシャンプーについて、高柳製茶さんと、それから牧之原美容さんが関わっていただいて、製品づくりに取り組んでいるのと、梅がたくさん取れるものですから、梅を使ったお菓子作りってということで、扇松堂さんにつながって進めているんですけれども、自分たちと世の中がつながっていくということについて、子供たちは、すごくワクワクすると思うんですよ。そして、そういうワクワクが地域との関わりを深めていくことになると思います。

例えば、こういうことに協力してくださるお店屋さんとか、専門家の方とかとつながりやすいような仕組みがあるといい、商工会さんに聞けば、起郷家のことだったら協力するよっていう形でつなげていただければありがたいし、農業関係だったらJAさんとか、それ以外でもいろんな分野があるので、どことつながりたいか、その時々課題によって違うと思うんですけど、いろんなところとつながれるような仕組みがあると嬉しいなと感じました。

牧中は昔からお茶の販売をしていて、秤で量って袋に入れるとか、パッケージはどの学年がやるとか決めて、最終的に商品開発をしてサービスエリアで売るということで、今年は300袋以上のお茶が売れたようなんですけれども、社会とのつながりというのも、子供たちにとってはものすごいプラスになっていると思います。ワクワクしながら、世の中とつながっていくということで、子供たちも将来の自分ということを考えるかもしれないなあと感じました。

○山本委員

起郷家教育、キャリア教育とてもいいことで牧之原市も進めていくと思うんですけど、牧之原の小中においては保育園も近くにありますので、保育園も巻き込んでもいいんじゃないかと、大変なことだと思うんですけど、保育園の先生が起郷家教育ということを小学校でやっていること、起郷家教育だけに関わらず今は小中でランドデザインも揃えていると思いますので、その意見交換だったりとか、キャリア教育ということを、お互い知ること、例えば小学校1年生になったときに、スムーズに学校に馴染めるとかあると思いますので、また市内については保育園の数も多いですし、私立もあると思うので難しいと思うんですけど、せっかくこういうことをやっているの、9年間とはいわず、できれば保育園、高校も含めた教育環境でやれたらいいかなと思います。ぜひ、保育園と小学校の連携をより一層、強めて欲しい

いなと思います。

○橋本教育長

山本委員からお話がありました、牧之原小中の強みを生かした取組が良いと思います。保育園も同じ敷地内にありますので、他の学校に比べてやりやすいので、進めていく価値はあると思います。

近江委員から提案いただいた人材バンクについて、市内にこういう方々がいるというようなものをつくっておりますが、学校側の要望とそれができることをうまくマッチングできるかということに課題があります。CSディレクターさんとかに調整に入っていて、そういった活動を行いたくなれば、その要望に応える形でつないでいきます。市内の学校の情報は共有しておりますので、情報交換ができていますと認識しております。

○近江委員

子供たちの意識の変化のデータは信頼できると思います。3年前と比べてこれだけの伸びがあるということは、素晴らしいことだと思いました。

例えば、3番の地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかは、伸ばすことは大変なことだと思うんですけど、よくこれだけ伸びたなと感じました。

また、先ほど、いろんな方とつなげてということで、講師とか来ていただいて、教育していただくのに予算も必要かなと、そういった配慮ということもお願いしたい。

○杉本市長

教育長、予算について、各学校で講師を招いて行う場合の山崎こども教育振興財団の財源について説明をお願いします。

○橋本教育長

はい。山崎こども教育振興財団の方で、各学校で講師を招いて、科学のことに関しては間違いないですけど、科学以外にも子供たちに夢を持って、将来の夢に向かって取り組むようなお話、講演会とかにも助成しますということで、毎年、各学校にお知らせしています。

募集するタイミングと、学校が次年度の計画を立てる時期がずれているものですから、学校は1年間の計画を決めてしまうと、なかなかそれを組めないという事情はあるんですが、うまく使ってもらいたいという思いで、各学校にPRをしています。今年もすでに1件、やりたいという学校がありま

す。先ほど、提案頂きました取組の一つとして、各学校に使ってもらえればと思っています。

本日、委員の皆さんからお話を聞けて、私たち教育委員会の事務局としては、このキャリア教育を軸とした小中一貫教育をさらに推し進めていくことに対して、自信を持って、今後取り組んでいきたいなと思うし、これまでの市の総合計画の前期では、学校づくりということでずっと取り組んできて、教育委員会としては、学校づくり、学校再編が柱だったんですが、これからは、まちの未来に向けた新たな教育と人づくり、ハードからソフトの方に入っていくという後期の取組に重点をおいて、キャリア教育を大事にしながら進めていきたいなと思っています。

先ほど、牧之原の保育園も高校も取り込んでというお話ありましたが、高校再編について、静岡県教育委員会も榛南地域には一つの学校に再編するという方針も出されているわけですから、中3で終わりじゃなくて、高校につながるような取組も視野に入れながらやっていきたいなと考えています。

あわせて、さきほど言いましたけれども、牧之原の教育環境を整えるために、教育の施設の方ですね。牧小中もそうですけれども、小中一貫校として施設整備の方もやらなければならないし、榛原地域、相良地域の新しい学校も、細部を詰めてつくっていききたいなと思っています。

課題は、起郷家教育がまだまだ一般化、知られていないというところがありますので、教育委員会内で皆さんにどう知らせていくかということを考えて、やっていきたいと思っています。

また、こんなことがあるよということで、教えていただけるとありがたいなと思っております。

○近江委員

直接、関係はないんですけれども、9月19日をすごく楽しみにしてるんです。い〜らで今中先生が講演をされます。今中先生は相良油田を30年前から研究されている方で、相良油田は独特の油の出来方をしていることを発見された方です。HD-1という微生物、細菌が地下にあるメタンハイドレートドロドロしたものを食べて、油に分解するとか、油をつくるという油生成菌、石油生成菌で、HD-1は油を元に戻す力もあるから、工業的に生産できれば、世界的に革命的で、今、油関係、大変ですけれども、解決できるかもしれないという、夢のような話ですけれども、取り組んでいらっしゃる元京都大学の先生です。そういうことも起郷家で、相良油田ですので、世界でもまれな石油の出来方をしている場所があるということも、牧之原の物凄い大きな財産だと思うので、ぜひ活用していただきたいなと思います。

○杉本市長

ありがとうございました。

劇団静岡県史が主催ですよね。できるだけ多くの人たちに行ってもらいたいですよね。年が明けたら劇団静岡県史が劇をやるみたいですね。

そのほかはよろしいですか。

本日、起郷家教育に関しての様々な御意見いただきました。課題を提起していただきまして、その中で一番大事なのは多くの市民の人たちに、こんなにいい起郷家教育をやっているの、もっと知ってもらいたい、保護者に知ってもらいたいという意見が多かったかと思います。私もそのように思いますし、子供たちにいろんな職業があるっていうことを知ってもらいたいなと思います。その中で自分が好きなことで、どんな職業に就くかということをして中学生になったら考えられるような、まあ小学生からでもいいんですけど、大事だなと、お話を伺って感じました。

頂いた御意見を教育委員会でもしっかり受け止めて、これからの事業の参考にさせていただきたいなと思いました。

それから、義務教育学校が今度できますけど、地元の高校との関わりも大事だなと思うんですね。高校再編の話は先ほど教育長からありましたけど、どのような状況かというのは、皆さんも御存じだとは思いますが、今年の中学校3年生の卒業生が320、330人なんですけど、去年、令和7年度に生まれた子供はもう150人を切っていますので半分以下なんですね。今から10年後くらいには、このまま何もしなければ榛原高校が2クラス、相良高校が1クラスになってしまう。

今、相良高校はスーパー地域密着型高等学校（SCH）に取り組んでいて、地域との関わりというか、ボランティア授業も含めて、サーフィン活動なんかもすごく活発にやっているんですね。

榛原高校生なんかも、かなり地域に出ていくというようなことをやって地域と関わることをやっているし、毎年、相良高校も榛原高校も1時間ぐらいのコマをもらって、市政報告会の内容と似通った、牧之原市の課題とか強みとか、第三次総合計画の取組とかをお話しさせてもらっているんですけど、高校生も「こうしたらこの課題解決できるんじゃないの」と、先ほど小学生が課題の解決を考えるとあったけど、そういうことにつながってくると思っています。そういう中で、先ほど言ったように、何もしないと榛原高校2クラス、相良高校1クラスになってしまうと、何もしなければ自然消滅になってしまうと思っています。どっちをどうするという話があるかもしれないんですけど、今回、県が示したグランドデザインというのは新しい高校をつくろ

う、榛原高校に相良高校を吸収するとか、相良高校に榛原高校を吸収するということではなくて、私も教育長も、あと両校の同窓会長も出席した上で、校長先生も出ていますけど、新しい学校をつくろうじゃないかと、グローバルな人材も育てるし、地域で活躍する人間も育てる。この二つの強みを統合・融合させる、例えば、榛原高校の理数科を残しつつ、相良高校にある地域密着の部分も一緒に取り組みながら、牧之原の子供だけじゃなくて、御前崎からも、吉田からも、「来たい」と思える高校をつくっていくべきじゃないかっていうことで、方針というかグランドデザインに辿り着いたんです。この件に関して新聞報道等が出ていますけど、市民の声というのはどうかな、まだ県からちゃんと説明会をやってないですけど、私のところには少なくとも反対だというような話はないですね。

義務教育学校の榛原校が2030年開校、相良校が2033年開校ですから、その時期の2033年から2035年ぐらいの間には新しい高校もできて、義務教育学校と新しい高校が連携していきながら、高校生が義務教育学校の子供たちと関わるということをしていくことによって、「僕たちもこの高校に行きたい」と思うようにつながってくると、いい方向に行くじゃないかなと考えていますので、教育委員の皆さんからもいろいろな御意見を寄せていただければなと思っています。高校再編もこれからも進んでくるということですが、どこかで少子化に歯止めがかかって欲しいです。様々な施策をやっていますが、V字回復とはいかないにしても、レベルを保って、それから徐々に増えていくような形に持っていきたいと思っていますので、高校再編も進んでいるってことを理解もいただきながら、起郷家教育について様々な御意見を頂きました。

ありがとうございました。若干時間が早いですが、起郷家教育についての意見交換は以上とさせていただきますと思います。

4 報告事項

牧之原市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について

○杉本市長

それでは、報告事項ということで、「牧之原市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について」を報告させていただきます。

説明をお願いいたします。

●学校教育課 佐藤主席指導主事

【牧之原市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画についての資料を用いて説明】

○杉本市長

ありがとうございました。

以上で協議事項及び報告事項は終わりとさせていただきます。

それでは、進行を事務局に返します。

5 事務連絡等

○瀧口総務課長

ありがとうございました。

1点御連絡をさせていただきます。

本日の会議につきましては、会議録を作成することになっております。後日、内容の確認について御依頼の方をさせていただきますので、お手数をおかけしますが、御協力の方よろしくお願いいたします。

6 閉 会

○瀧口総務課長

それでは、以上をもちまして、令和8年度牧之原市総合教育会議を終了とさせていただきます。長時間にわたりありがとうございました。